

霊峰に
夏
来たる！



発行所

〒793-8555
愛媛県西条市西田甲797番地

石鎚神社・石鎚本教
電話 (0897) 55-4044

7・8月号



秋本栄氏撮影 石鎚大パノラマ

道

御山開き大祭も恙無く終了しました。皆さま、ようこそご参拝下さいました。

大祭の終盤からコロナ禍が再熱しましたが、「明けない夜は無い。」と信じております。

大祭中、とある大先達が宮司室でぼつりと申されました。「お祭りが出来て良かった。これでまた命が甦る。」

この一言が忘れられません。その大先達が加えておっしゃるには、「会議等では常に若い先達に出席を促し、「古株」は出ない様にしています。若い方々に公の席の経験を重ねて欲しいのです。」

若い方々が公の場に慣れ人様のお世話を積むことが参拝団の新しい動きに繋がり、生まれ変わってゆく事を願って陰ながら人様のお役に立つように振舞う事。そのお徳積みは必ず最後にご家族子孫の幸せに繋がって行くはずだと、大先達の横顔を見て感じました。

武智。

霊峰石鎚山 先達信徒の皆さまへ



石鎚神社 宮司
石鎚本教 管長
武智正人

御山開き大祭は、本年も、
厳肅に恙無く、斎行されました。

先達信徒の皆さま、
ご奉仕、ご参拝に
誠に有難うございます。

令和四年御山開き大祭の
斎行、おめでとうございます。
本年の御大祭も、皆さまの
健康と安全を最大限に考慮
しつつ、祭儀は厳肅にご奉仕
し、各奉仕課の体制は通年の
七割まで広げ、懸命にご奉仕
致しました。ご奉仕の皆さま

には、長期間に亘り自宅や職
場を離れて山中の参籠、時に
雨風の中を誠に、ありがとう
ございます。

今年は新たに「自衛隊」の
方々が救護活動にご奉仕く
ださいました。御山開きを
支援する西条市を自衛隊が
支援する形でのご奉仕は誠
に心強く有難く、心から感
謝申し上げます。

ご参拝の皆さまには、自
宅検温、手指消毒、マスク着
用でのご参拝をお願いし、
古来の「代参」もご案内しま
した。ご参拝、そしてお祈り
をくださり、誠にありがと
うございます。

御神像の御動座は、
本社↓成就社↓頂上社を、
大分、中予、東予の崇敬組合に、
頂上社↓成就社↓本社と、

西条周桑、備後の崇敬組合に、
力の限りのご奉仕を戴き、強
者の足音を霊山に轟かせて
の勇ましいご奉仕を戴きま
した。

皆さまの顔を拝し、嬉
しい懐かしいひと時もたく
さん戴きました。私も「宮司
登拝」にて三つの御鎖を掛
け、頂上社を参拝。清々しく、
命の甦る思いでありました。

同時に、信徒の皆さまか
ら多数の御初穂料、預かり
賽銭、御祈禱、お守りのお申
し込みをお預かり致しまし
た。土小屋遥拝殿御鎮座五
十周年へのご奉賛も、多数
にお預かり致しました。
右、有難く謹んで神納させ
て戴いております。

七月十一日、石鎚大神様
の御神像は、頂上社より成
就社を経て本社に還宮され
ました事、ご報告申し上げ
ます。

霊峰石鎚山は御山開き大
祭に御神威いよいよ輝き渡
り、皆さまの御神徳拝受ご健
康とご多幸を心よりお祈り
申し上げます。以てご報告と御礼
の言上と致します。

御山は「後山」の時期を迎
えました。ぜひ、後山の詣で
にもご来山ください。そして
どうぞ来年、お揃いでご参拝
下さいます様、お願いを申し
上げます。

敬具

御礼とお願い

土小屋遥拝殿御鎮座五十
周年の奉賛会へのご浄財を、
全国から多数お寄せ戴いて
おります。誠にありがとうございます。
ご屋根の葺き替え
工事も順次に進んでおりま
す。土小屋ルートからご登拝
の際には、ぜひ工事の様子を
ご覧くださり、どうぞ今後も
お見守りくださいます様、お
願い申し上げます。

令和四年 霊峰石鎚山 御山開大祭 御神輿渡御・御神像捧持 奉仕者各位

◎七月一日 御神像奉持

中宮成就社から奥宮頂上社

総括責任者

大分崇敬組合

野田 雅貴 監長

金幣奉持者

大分崇敬組合

西 勝司 大取締

一番 仁の御神像奉持

大分崇敬組合

石川 正行 副取締

合計20名

二番 智の御神像奉持

中予崇敬組合

宮田 尚樹 元老顧問

合計63名

三番 勇の御神像奉持

東予崇敬組合

西 昭和 大会長

合計30名

◎七月十日 御神像奉持

奥宮頂上社から中宮成就社

総括責任者

西条周桑崇敬組合

工藤 忠 元老

金幣奉持者

西条周桑崇敬組合

佐伯 義明 副取締

第一番 仁の御神像奉持

西条周桑崇敬組合

工藤 浩棋 副取締

合計60名



第二番 智の御神像奉持

西条周桑崇敬組合

丹下 利昭 副取締

合計48名

第三番 勇の御神像奉持

備後崇敬組合

深川 健二 元老大顧問

有功神鏡笏

合計70名



◎六月三十日

口の宮本社から中宮成就社

◎七月十一日

中宮成就社から口の宮本社

御神輿渡御奉仕

大保木・石鎚の氏子青年団並びに有志の皆様

御神輿渡御総責任者

伊藤 竜男 氏

一番 仁の御神輿 責任者

大保木 工藤 浩棋 氏

二番 智の御神輿 責任者

石 鎚 佐伯 信男 氏

三番 勇の御神輿 責任者

大保木 井上 歩 氏



以上の皆様にご奉仕を頂きました。

謹んでご報告致し、深く御礼を申し上げます。

石鎚神社・石鎚本教

日本最古の温泉・道後温泉 「源泉お身ぬぐい神事」 七月四日

お山開き大祭の七月四日、松山市の道後温泉旅館協同組合（新山富左衛門理事長）・道後石鎚ご縁隊（大木正治隊長）並びにご関係の皆様により、道後温泉の「源泉お身ぬぐい神事」が執り行われました。

このご縁は役行者の開山縁起にさかのぼります。西暦六八四年に白鳳地震が発生。四国地域は甚大な被害があり、道後温泉のお湯も止まりました。その翌年西暦六八五年に役行者が祈りを捧げ石鎚山を開山したお陰もあつてか、道後のお湯も再びわき出したそうです。それから千三百三十有余年の時が流れ、歴史を繙き自然の恵みに感謝する中で、ともに地域の宝である「石鎚山」と「道後温泉」が結びつく事になり、八回目の「源泉お身ぬぐい神事」となりました。

台風四号からの雨雲が流

れ込み、お清めの雨を頂く中、新山輝洋様はじめ十五名は朝五時三十分に松山を出発し土小屋遥拝殿へ。お祓いを受け、頂上社にて源泉献湯を行いました。



新山理事長始め「道後・石鎚ご縁隊」約二十名の皆様はロープウェイにて成就社へ。神門にて頂上から下山した皆様を出迎え、十五時からの源泉・お身ぬぐい神事となりました。

ご参加の皆さんは神門前で隊列を組み、新山理事長を先頭に、神職の前導でご本殿へ参進。殿内では武智宮司以下役員がお出迎えし、厳かな雰囲気での入殿となりました。

神事では、源泉を神前の案へ献湯。祝詞奏上の後、源泉を手桶へ移し替え、内陣へ移動。御神像を拭い清める「お身ぬぐい」を行った後、参列者への御神像拝戴となり、参列者一同お守り頂く事への感謝の気持ちと、コロナ禍の一日も早い終息・世界平和を祈りました。

観光業界もコロナの影響は非常に大きく、大変な時代となつていますが、宿泊の県民割等の施策も施され、少しずつ賑わいも戻ってきています。道後温泉では、別館飛鳥乃湯泉で「道後七夕物語2022」短冊に願いを込めよう」を開催し、オリジナルの七夕飾りやうちわのプレゼントなどを行い、夏休みの楽しみを醸成されています。

また、道後温泉本館は令和六年末までの予定で営業

をしながら保存修理工事を行っています。テント屋根にも色彩が施され、この時ならではの楽しみ方もありますので、道後温泉ホームページをご覧ください。

これから「お山の神」と「お湯の神」が手を取り合い、愛媛県、松山市、西条市、久万高原町が発展していく様、邁進して参りたいと思います。



今回の奉納にご尽力頂きました皆様に感謝申し上げます。ご報告と致します。

記・権宮司 十亀

お山開き大祭 功労章 辞令
神鏡笏 拝受

高知県

中島 敏彦 元老大顧問

長年のご功績に感謝申し上げ、ご報告と致します。

記・権宮司 十亀

令和四年御山開き大祭

御神像奉持

奉仕 勤続表彰

ご奉仕を十年以上にして今年も奉仕された方々へ、表彰之御品「金之鈴」を贈呈致しました。

歴史と伝統ある御山開き大祭の象徴の一つである御神像奉持へ長らくのご奉仕に心から感謝申し上げます。

七月一日

中予崇敬組合

亀岡 正雄・森棟 保彦

東予崇敬組合

川原 大助・重成 篤矢

(順不同・敬称略)

令和四年 御山開き大祭

宮司 登拝

七月六日

先達

権禰宜

巫女

総務室

総務室

神札授与課

備後崇敬組合

山口崇敬組合

武智 正人

玉井 安胤

植村 静夏

伊藤 光貞

十亀 貴文

秋山 一幸

浅利 伸吉

田辺 和彦



(順不同・敬称略)

令和四年 表彰状 発令

本年のお山開き大祭において新先達を五名以上育成され、新会符のお世話を頂いた大先達に表彰状が発令されました。

「会符を受ける」という事は石鎚大神様の信仰の氏子となり、石鎚山と深いご縁を頂く事です。そのご縁結びを今大祭の期間中に数多くお世話下さった『大先達』の顕彰であり、各所に於いて表彰状の発令が執り行われました。

表彰の栄に浴された皆様の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます、来年に向けて一人でも多くの新先達と石鎚大神様とのご縁が結ばれますよう祈念し、ご報告と致します。

記・権宮司 十亀

東予崇敬組合

大阪教会長

湊 喜美子

元老大顧問 功労章銀笏

宝光山関東石鎚教会長

富田 直幹

元老大顧問

備後崇敬組合

蔵王教会長

深川 健二

元老大顧問 有功神鏡笏

藤寫組

藤原 健司 大取締

大分崇敬組合

尺間嶽教会長

田島 大悟 名誉大監長

福岡崇敬組合

福岡田川教会長

榎並 好美 元老大顧問

無礙光院

橋本 良範 名誉部長

令和四年度

夏山大祭

元老以上

昇進者一覧

今般の夏山大祭にて元老以上に昇進された皆様の御芳名をご紹介します。

元老級は石鎚神社先達の幹部となります。今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。

《元老》

愛媛県

新居浜市

荒井 康成

香川県

高松市

岡田 英樹

高松市

中井 年子

高知県

四万十市

森田 るみ

高知市

和田 絹代

高岡郡

掛水 鈴子

土佐市

池田 淑

広島県

呉市

今木 靖人

廿日市市

杉元 聡浩

福山市

大石 征忠

広島市

東 正治

尾道市

角 信一郎

岡山県

井原市

佐々木睦朗

福岡県

北九州市

上田 聖二

北九州市

竹村 筆年

福岡市

津田 佳昭

京都郡

牧野 英教

滋賀県

湖南市

石崎 法潤

群馬県

沼田市

石坂 陵俊

千葉県

茂原市

海江田準一

《元老顧問》

愛媛県

今治市

小林 敏朗

今治市

羽藤 繁雄

西条市

松本 清一

香川県

仲多度郡

細川 悦子

広島県

広島市

玉井 利弘

広島市

豊田郡

野北 静子

呉市

新地 正明

呉市

川本 裕子

岡山県

笠岡市

畑中 正太

京都府

京都市

岩田 隆海

岐阜県

多治見市

中田 道利

《元老大顧問》

愛媛県

松山市

井上 勲

今治市

菊川 範一

上浮穴郡

坪内 続

香川県

坂出市

中西 正美

高松市

武田 孝美

高松市

山地真由美

高知県

高知市

東山 和正

広島県

呉市

北倉 末男

福山市

園尾久美子

福岡県

北九州市

井上日出人

東京都

港区

峠元 幹也

(順不同・敬称略)

御奉納

七月一日～十日までの

霊峰石鎚山お山開き大祭にて

『大幟旗』を新たに境内に

御奉納いただきました。

令和四年七月吉日

東予崇敬組合

檜地 紀雄

(敬称略)

御奉納誠にありがとうございます。





霊峰石鎚山お山開き大祭にて『幟旗』を境内に奉納いただきました。
令和四年七月一日～十日『霊峰石鎚山お山開き大祭幟旗』

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	本社本殿	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頂上社
〃	〃	〃	愛知県 岩倉教会	高知県 土佐清水市	福岡県 田川市	滋賀県 大津市	福岡県 行橋市	山口県 宇部市	山口県 防府市	〃	〃	〃	高知県 四万十市	大分県 大分市	香川県 高松市	福岡県 久留米市	香川県 高松市	〃	愛媛県 西条市	大分県 大分市	広島県 広島市	〃	広島県 呉市	愛媛県 西条市
伊東 義雄・和佳代	一野瀬 拓哉・己起子	柴田 治子	山守 昭子	竹葉 正直	木浦 孝文・妙美	東城 徳孝	東城 陽一	綿谷 清子	迫 清美	中村 遥拝所 尾崎 真由	中村 遥拝所 尾崎 元紀	中村 遥拝所 森田 るみ	中村 遥拝所 森田 茂	田村 光章・清水 真智子	女木 五色組 和田 秀穂	松本 長人	東予崇敬組合 柏原 宏康	一色 百合美	一色 章二	田村 光章・清水 真智子	北川 貴伸	西中 カホ子	西中 圓勝	西中 剛

(順不同・敬称略)

お初穂奉納者

お山開き大祭(預かり賽銭)他

五万円以上ご奉納いただきました皆様

《本社・預かり賽銭》

◎四拾万円以上

讃岐神大遙拝所

大高 久呼

◎壹拾五万円以上

豊の国石鎚講社

姫野 昌訓

◎五万円以上

佐川教会

神畑遙拝所

片岡 抄織
松本 光子

《本社・初穂》

◎五万円以上

福岡神和教会

愛知遙拝所

松山市 須之内明吉

西条市 鈴木 昭南

西条市 鈴木サチエ

《成就社・預かり賽銭他》

◎四拾万円以上

大阪教会 湊 喜美子

◎参拾万円以上

福岡神和教会 佐伯 良子

◎式拾万円以上

睦美教会

吉見教会

田窪 一善
加藤 法泰

◎壹拾五万円以上

下関教会

山口県 田辺 和彦

◎壹拾万円以上

鐘ヶ淵教会

山田 春治

◎五万円以上

大阪周布教会

山口県 木元 裕子

《成就社・初穂》

◎壹拾万円以上

福岡講

福岡神和教会

登録信徒一同

◎五万円以上

睦美教会

大分県 田窪 一善

石鎚登山ロープウェイ(株)

伊藤 和豊

《土小屋遙拝殿・預かり賽銭》

◎式拾万円以上

香春教会

川津 守秀

◎壹拾万円以上

大分石鎚教会

江藤 秀人

◎五万円以上

大分吉野遙拝所

楠野 耕市

《土小屋遙拝殿・初穂》

◎五万円以上

愛知遙拝所

瀬谷恵美子
中山 武俊

お初穂奉納者

五万円以上ご奉納いただきました
ました皆様令和四年三月一日～
令和四年七月二十二日まで

《本社》

◎壹百万円以上

田中 達夫

◎五拾万円以上

讃岐神大遙拝所

大高 久呼

伯国石鎚神社

津野アマデウ

◎式拾万円以上

田中 (某)

◎壹拾万円以上

神明遙拝所

大西サカエ

◎五万円以上

愛知遙拝所

瀬谷恵美子
浅海 重子

(順不同・敬称略)

ご奉納心から篤くお礼申
上げます。

教会責任役員変更

※鎮座地 山口県防府市

※当該教会 富海教会

※新任責任役員名

松岡 英二

※任期は、前責任役員の残
任期間。

※令和四年六月八日付管長

辞令発令。

以上



令和四年度 御山開き大祭 頂上社 御神酒奉納者御芳名

令和四年「霊峰石鎚山御山開き大祭」に、頂上社へ御神酒の御奉納を戴きました方々の御芳名を紹介致します。

(敬称略・順不同)

福岡神和教会
佐伯 良子
佐伯 京子
青木 淑恵
上廣 一範
上廣 トーヨー住器(株)
上廣 サッシ工業(株)
牛尾 武司
原坂 嶺
高橋 照彦
小山 和子
日高 知子
(株)日高合金
(有)日高ビル
富澤 小由里
(株)ソリッド
(有)松浦竹田ファーム

グッドリーフ
(株)ライフグリーン
(株)サンファーム
(株)エバーグリーン
松原おこし 麻生本家
桑原 伸一
檜崎 友美
波多部 杏奈
中牟田 勝志
藤井 博仁
古川 敬
新免 真智子
藤田鮮魚店
藤丸 光一
九州特殊メタル工業(株)
湯浅 静子
加茂 美博
加茂 なぎさ
ツツミ産業(株)
副島 眞紀子
森行 康則
山本 哲郎
山本 茂幸
権丈 東
龍 大
龍 準
浪瀬 利栄子
坂本 佐代子
大阪教会 湊喜美子

しやれ舞踊化 島本貴代
ヴィンテージ 湊恵子
(株)ミナト 湊恵子
(株)福一不動産販売 島本昭
前田 良秋
阿川ランドセル(株) 阿川政明
阿川 美恵子
阿川 勝博
日本民泊協会 大植敏生
(株)双葉製本所 福岡義登
石原 英俊
藤川 真和
(株)寝屋川興業
(株)エンタープライズ山要
(株)エンプラオートハウス
福岡 功
ロードサービス・イコマ(株) 稲上 満弘
昭和仮設リース(株) 吉見敏明
和歌山米穀(株) 久保輔
パシフィックシップマネージメ
ント(株)
スーパースhipマリンサービス
インク
古曾部焼義崇窯 寒川義崇
佐野 史枝(二件)

佐野 嘉治
佐野 禎治
四国軽貨物配送 湊照彦
(有)一色石材工業所 一色章二
北大阪清掃(株) 岩元雅清
(株)栄幸運送店 藤原輝男
黒川 住子
(有)東工業 赤瀬巨乙
伯方造船(株) 木元裕行
富晴産業(株) 木元裕行
村上石油(株) 村上博典
日鮮海運(株) 阿部克也
日興汽船(株) 阿部克也
協和汽船(株) 阿部克也
金力汽船(株) 多田憲司
英弘汽船(株) 阿部弘孝
今治ヤンマー(株) 冠康秀
霧島汽船(株) 阿部和久
ダイハツディーゼル四国(株) 北ノ原弘之
阪神内燃機工業(株)
(株)新地衛生
澤田 益男
セブン・イレブン大阪中津南店
(株)山源
山源商事(株)
山本剛也
山本剛生

[illegible]

森 一子	砂野 秋子	砂野 勝子	新名 利恵	砂野 和美	向田 将央	平岡 豊子	下田 登久子	重松 誠道	石田 絹恵	鶴久森 敦子	尾田 チエ子	豊田 綾香	渡邊 康則	柳川 典子	宮本 泰子	麦田 和徳	西原 和男	武智 保則	神野 武夫	北温運送(株)	白石 眞崇	東雲講社(二件)	重見 幸男	大竹 文子	井上 和夫	伊藤 佳次	山本 征壽	山本 眞理子
																				白石隆文								
大誠汽船	大光汽船	近藤 俊郎	第2ビジネスホテル山中	醬油江後商店	植木 和恵	稲田 甲一	石崎 昌司	滝村 卯・みさき	崎山 潤一	大森正博	中川 春晴・貴政	藤代 定志	藤代 典久	寺嶋 富久江	谷口 幸代	早川 照生	和田 善一	藪内 宗良	南井 英子	井上 智穂・和太	上野 浩之	石崎 智学	丸山 敏幸	伊瀬 正賢	伊瀬 正賢	丸山 敏幸	伊瀬 正賢	薬王院 石崎法潤
村山大介	石丸正文		下本洋一	江後進																								
西井 千代進	福村 忠宏	吉見教会	岡本 嘉孝	田村 光恵	田村 和稔	大分石鎚教会	大分石鎚教会	江戸 正二	畝本 善吾	上田 聖二	藤田 義久	真鍋 光昌	伊藤 史郎	今井 信吉	伊東 祐宏	伊藤 光貞	井川 順子	荒井 和四郎	足立 信昭	(株)秋山魚市場	秋月 寿文	あいの里(有)	浅野 寛・ゆたか	阿部 圭	阿部 信彦	阿部 信彦	阿部 信彦	花のクローバー(有)
						勝山遥拝所	江藤秀人																					
三春奈京子	神田 美智恵	小野 キソエ	越智 節子	穂波教会(二件)	豊の国石鎚講社	坪内 続	頂上山荘スタッフ一同	田尻 清久	田尻 淑子	村井 宗幸	勝本 房利	三原市教会	備後南教会	延岡 等(二件)	岡本 得正	岡本 辰明	神原 秋光	広島西教会	水主川 豊伸	丸小 賢三	片岡 抄織	片岡 瑞恵	酒井 健作	酒井 幸枝	酒井 和子	西中 松生	西田 喜美江	西井 静枝
					姫野昌訓							福地宗明彦						初谷忠彦										

神農 町子	今治崇敬組合 小林敏朗
ベルグクラブ	(旬)藤本石油
大高 久呼	柴田 千重子
高木 康二	柴田 哲男
導不動産遙拝所(二件)	柴田 光江
睦美教会	中尾 衣子
田窪 一善	古門 孝義
平原 幸好	松浦 節子
菅 忠昭	松本 幸子
十亀 勉	松本 至弘
武智 晴子	高橋 和義
曾我部 里子	松本 佐千子
平岡 明	(株)松本仏壇店
沖本 一	宮木 チエ子
越智 雅弘	宮崎 千歳
島崎 高志	村上 一也
島崎 光子	森 晃一
難波江 辰一	森尾 眞二
富田 直幹	安田 明玄
近藤 哲弘	矢野 孝明
南 繁芳	矢田 日門
篠路 佳子	矢田 美佐子
森田 茂	渡辺 義宣
有岡 言悦	黒川 栄作
佐々木 美代子	川尻東講社
樋口 方雄	倉敷中央遙拝所
蓑部 為義	櫻井 温子
神明遙拝所	砥部焼窯元
露口 幸記	大西サカエ

谷岡 弘子	以上 三八七件
豊田 尚子	多くのご奉納をありがとうございました。
松木自動車	来年の奉献酒については、本年御奉納頂きました皆様には例年同様個別にご案内を差し上げます。社報にも奉納案内を掲載いたしますので、頂上社への御神酒奉納を宜しく願います。
松原 喜美子	担当 権瀬宜 勝本 貴大
金平 敏孝	

大阪府

瑞明遙拝所

所長就任

遙拝所長

西川 昌宏 名誉大監長

令和四年五月一日 付



標記の件につき、先代所長・西川薫刀自命帰天の為今般、五月一日付けにてご子息・西川昌宏名誉大監長が新所長に就任されました。

先代所長のご意志を継がれ、西川所長を扇の要とし、遙拝所が益々隆昌でありますよう祈念し、ご報告と致します。

五九六〇八二七
大阪府岸和田市上松町
一〇二五一一
〇七二一四七七―二五二八
記・権宮司 十亀

教会承認

宗教法人 石鎚本教

四等 土佐野市教会(非法人)



出原 孝文 教会長

代表役員(以下敬称略)

出原孝文

責任役員

出原康代

山中陽太

菊池未娑希

伊東美奈

岡田しのぶ

久保千恵

監事

大庭正誠

刈谷恵子

総代

出原康代

出原華穂



出原 功
山中陽太
刈谷恵子
刈谷 慶
大庭正誠
菊池雄太
久保千恵
尾崎かおり
山脇直美
伊東美奈
松村志保
岡田しのぶ
大庭美恵子

※五月一日管長辞令発令
遙拝所より教会へ昇格
承認されました事をお知
らせ致します。

役員就任

令和四年五月二十三日の総代
評議員会にて役員選出が行わ
れました。

石鎚神社 常務総代
石鎚本教 理事

あきら

高橋 亨



旧石鎚村の出身、生粋の氏子。
祖父、高橋兼四郎氏・厳父、
高橋公男氏は共に、常務総代
を務められ、親子三代に亘る
ご就任となります。

石鎚神社 氏子総代
石鎚本教 評議員

高橋 省司



旧石鎚村の出身、生粋の氏
子。伊藤重信元名誉顧問・吉
田宏名誉顧問よりご推薦を
頂き、ご就任となります。

石鎚本教

教会等級昇格

三等教会

福岡県

福岡田川教会

教会長

榎並 好美

元老大顧問

権中教正



令和四年五月二十三日 昇格

本年、教会創立六十五周年
を迎え、榎並教会長を中心に
布教強化に尽力されていま
す。五月の総代評議員会に
て辞令下付、また、六月五日の
六十五周年に併せ信徒の皆様
にお披露目致しました。

今後益々のご活躍・ご隆昌を
祈念し、ご報告と致します。

記 権宮司 十亀

石鎚本教 伊予教会 代表委員・責任役員 変更

※鎮座地 愛媛県伊予郡
※代表役員・教会長
大森 真由美



右、令和四年六月五日付、管
長辞令発令、任期は終身。

※責任役員

肥田 芳一
松本 忠嗣

水口 泉

右、令和四年五月二十九日付、
管長辞令発令、任期は四年。

※補充選任責任役員

松本 ツネコ

右、令和四年六月五日付、管
長辞令発令、任期は先出の責任
役員として同日に満了とする。



ツリバナ



ブナハリタケ

大分崇敬組合 令和四年度 理事・委員総会

六月十一日 開催

大分県消費生活・男女共同
参画プラザ アイネスにて

浦松 傳 崇敬組合長
元老大顧問



出向者

武智宮司・管長

中西名誉顧問・奉賛会会長

佐々木権禰宜

組合参加者 四十五名

審議事項

○令和三年度活動報告

○令和三年度収支決算報告

○同、監査報告

○令和四年度事業活動報告

- 令和四年度会計予算
- 八十周年記念式典の開催
- お山開き大祭 併せ
- 七月一日 御神像奉持の件
- 本社より報告・ご案内
- その他

前記要項にて、コロナ対策
の為、三年ぶりに理事・委員
が集まつの開催となりました。
来年、令和五年六月には、
組合設立八十周年を迎えるに
あたり六月十日に記念式典を
予定、式典実行委員長に副組
合長 姫野三智広 元老大顧
問の就任が各決定致しました。
七月一日、例年御奉仕頂い
ております成就社から頂上社
への御神像奉持の件では、石
鎚本教 霊威教会(教会長
中西幸男 元老大顧問 最高
功労章 金笏)の信徒を中心
としてのご奉仕が託されました。
長き石鎚信仰の中に、「大
分より風が吹く」とも言われ
ます。今後益々の組合の御発
展、皆様方の御健勝をお祈り
致します。

文責 権禰宜 佐々木
合掌



小鳥でしょうか？
ウラジロモミのコーンです

高知崇敬組合 総会 開催

出原孝文組合長
副大監長
中講義



日時 令和四年六月十一日

十二時より

場所 高知会館

本社出向

武智宮司

岡村常務総代

曾我部洋輔権禰宜

右記にて高知崇敬組合総会が開催されました。

開会の辞、霊峰石鎚山遙拝、物故先達教師に黙祷を捧げ、出原組合長が挨拶をされ、議事へと移ります。事業報告、会計報告、監査報告がされ、収支決算が正確であったことが認められました。本年の夏山奉仕者は組合長ともう一名の計二名での奉仕であることが伝えられ、次年度事業報告、予算案が発表されました。

た。その後、武智宮司の挨拶、本社より土小屋遙拝殿の現状、本年の御山開大祭の説明、本教教師講習会等の日程を報告させて頂き、閉会となりました。

総会後は、直会を執り行い、解散となりました。

今後とも、出原組合長を扇の要として高知崇敬組合の益々の御発展と御参集頂きました皆様の御健勝、御多幸を御祈念致しまして甚だ簡単ではございますが、報告とさせて頂きます。

記 権禰宜 曾我部洋輔



役行者尊例大祭お火焚き祈願祭 斎行

去る四月三十日午前十一時より中宮成就社見返り遙拝殿内にて役行者尊例大祭お火焚き祈願祭が斎行されました。



ご参列の皆様には自宅での検温、マスク着用をお願いする中での斎行となりました。

祭典は、氏子立螺之会所属の山本篤幸氏の法螺吹鳴により開始、石鎚山を遙拝、武智宮司管長が祝詞を奏上、祭員、参列者一同で大祓詞、般

若心経を斉唱し、宮司、参列者により日頃の感謝を込め玉串を奉りました。



引き続き見返遙拝殿前に組まれた護摩壇にて、お火焚き祈願祭を斎行、全国各地より寄せられた祈願木三百六十四体の願意と名前を神職が読み上げ、瑞明遙拝所西川昌宏所長先導のもと参列者一同で大祓詞、般若心経が斉

唱される中、権宮司の手により各々の願いが無事成就しますよう焚上げしました。祭典の後、ご参列頂きました皆様に当日のみの特別なお守りを贈呈致しました。



感染症拡大も少し落ち着いてきている中、ご参列頂きました皆様方、誠にお疲れ様でした。祈願木をご奉納頂きました皆様方の思いが届き、常日頃穏やかに過ごせることを切に願い、ご報告とさせていただきます。

記 権瀬宜 曾我部 洋輔



五月二十二日
令和四年度 第十回『御神像奉持習礼』
しゅらい

(本社於)

去る、五月二十二日(日)石鎚神社口之宮本社に於いて三十八名が参加して御神像奉持の習礼(予行演習)が執り行われました。

新緑鮮やかな青天の下、午前十一時に本社本殿に二十八名の参加者と武智宮司を始め職員、平岡常務総代を始め役員など総勢三十八名が参集。本殿土間拝殿にて開式太鼓法螺貝吹鳴の後、お祓いを受け、参加者全員が平岡筆頭常務総代の先導で神殿を拝礼。閉式太鼓法螺貝吹鳴で開講奉告祭を執り行い、その後習礼場へ移動して、西条周桑崇敬組合菅忠昭神鏡笏・元老大顧問による柔軟体操で皆、身体をほぐし、東予崇敬組合西昭和副大監長に指導を仰いで、御神像奉持の注意事項や仕方など、実際鎖場で御神像リュックを背負つての登り下りの実践を全員が体験して頂きました。

この習礼場は、令和二年にお

山開き大祭の象徴の一つである御神像奉持の勇躍奉仕を広く知って戴き、神事の安全を願ひ、同志の信頼と友情を深め、未来の御神像奉持の広がりを期するため、この度本社境内の一面に「習礼場(しゅらいじょう)」が設けられ、今回初めて使用し、お披露目としました。

習礼場には、石鎚山の象徴である御鎖が一条、懸崖され、徳島県、常務総代・本教理事、平岡明神鏡笏・元老大顧問のご奉納です。

建設に際し、備後崇敬組合、蔵王教会役員、深川兼臣特別大監長にお願いして、貴重な助言を多々戴きました。

設計、施工管理、氏子立螺之会長、岩本廣志大取締役、施工、(株)真鍋組、真鍋明夫殿に深くお世話を戴きました。

今後、お山開き大祭での参加は勿論、この体験を生かし、ますますのご活躍と先達として組合の中心となり多くの信徒をお山開き大祭へお導き頂きますことを祈願し、参加者のご健康とご多幸を祈念して報告いたします。

権瀬宜 大岡 記



参加者

《東予崇敬組合》

武田 喜善副監長
森 清一大取締役
渡辺 亮太副取締役
西岡 孝副取締役
立花 哲也副取締役
重成 篤矢副取締役
近藤 重美副取締役
西 昭和副大監長
川原 大助 川上 怜士

《西条周桑崇敬組合》

佐伯 義明副取締役
菅 忠昭神鏡笏
十亀 勉神鏡笏
秋山 一幸副大会長
難波江辰一 元老
岩本 廣志大取締役
山本 篤幸副取締役

《中予崇敬組合》

日下 武史副取締役
佐伯 隆典元老
泉 治雄元老大顧問

《本社》

宮田 尚樹元老顧問
定井 暢男特選部長
亀岡 正雄副大監長
渡部 浩二副取締役
松波 賢一 山本 良成
高須 健三 河本 浩典
武智 正人 十亀 博行
大岡 忠徳 中西 幸男
平岡 明 伊藤 光貞
十亀 貴文 藤原 拓
高橋 亨 高橋 省司
(順不同・敬称略)



石鎚山を愛するすべての皆様とともに —

新井満追悼特別音楽祭

第一回

Ishizuchi Music festival

石鎚恩楽祭

『石鎚山』

名曲「千の風になって」の新井満が問う、勇気といのちの家族歌。

西条市に多大なるご尽力をいただいた新井満さんの遺作となった愛唱歌「石鎚山」

「親子の絆、生きる勇気のメッセージ」を合唱・器楽演奏・ダンスなど、さまざまなパフォーマンスでお届けします。



出演者

テノール歌手
秋川 雅史(友情出演)
レーモンド松屋司会 戒田 節子
・元南海放送アナウンサー
・劇団「みかん一座」座長ソプラノ歌手 今久保 宏美
ピアノ伴奏 木下 明子

渡部孝子 ラウレア

石鎚神社・奉納太鼓&法螺貝
西条市立北・南・東中学校合同合唱部
西条市立北中学校吹奏楽部特設サイト
はこちら▼

日時 2022年10/2日 開場 14:00 開演 14:30

会場 西条市総合文化会館大ホール

入場料 (全席自由席) 前売 ¥3,000 (税込) 当日 ¥3,500 (税込) 一般発売日 7/20(木) 10:00~

*チケット販売所: 西条市総合文化会館、明屋書店西条本店、西条商店街協力店、石鎚神社会館、ローソンチケット(Lコード: 63401) ほか

主催 「千の風になって」のまちづくり実行委員会、石鎚恩楽祭製作委員会

共催 西条文化芸術家協会、NPO法人うちめき21プロジェクト 特別協力 石鎚神社

後援 愛媛県、西条市、西条市教育委員会、西条商工会議所、西条商店街まちづくり協議会

神社会館にて、チケット販売しています。

お問い合わせ

石鎚恩楽祭製作委員会事務局
TEL 0897-55-2799

第五十二回 霊峰石鎚山 三十六王子社巡拝 並びに納め札奉納

ご 案 内

役行者によって開山されて以来、数多の修験者によって祈りを捧げられてきた三十六王子社巡拝行。石鎚神社・石鎚本教・教会聯合会では、石鎚山三十六王子社の顕彰事業として、巡拝と祈願納め札の奉納を行います。左記要領(三泊四日)にて行いますのでご案内申し上げます。

《令和四年三十六王子社巡拝要領》

〔本社集合〕 十月二十四日(月)

午前七時

〔本社解散予定〕 十月二十七日(木)

午後六時

一、会 費 一人 金三万五千円也

一、持 参 品 洗面具・雨衣・防寒具・簡易アイゼン・着替え・ライト・各自薬・その他登山装備

一、申込期限 九月末日

一、定 員 二十名(予定)

※世情を鑑みて開催内容の変更並びに人数の増減がございます。ご了承をお願い致します。

一、駐車場 社務所直下の第一駐車場(右手の坂を登った青色の建物周囲へ駐車下さい。)

一、参加者は道中危険な所がある為、元気な方・体力に自信がある方の参加を希望します。

一、教会巡拝所所属の方は、各所属の長を通して申し込み下さい。

※個人で参加ご希望の方は、お知り合いの当石鎚の教会・巡拝

所の長の紹介にてご参加下さい。一、参加者は必ず、二組以上の祈願納め札を奉納のお世話をお願い致します。

※簡易アイゼンは本社にて、千二百円で頒布しています。お問い合わせください。

一、納め札一組(三十六枚) 金五千円也
希望者は、住所・氏名を申し込み用紙に書いて九月十五日までにお申し込み下さい。

《三十六王子社祈願納め札 奉納申込要領》

◎申込書が届き次第貴方へ「納め札」を送付致します(送先は世話人一括か各人宛か○印を付けて下さい)ので、各々に 住所・氏名・年令と祈願内容を祈願される方がご自身でお書きいただくようお願い致します。

◎記入済みの「納め札」は十月十日必着するようお願い致します。(本社宛)お申し込みは、一人でも何組でも結構ですが、連名の場合原則として一組二名以内とします。

◎納札奉納祈願申し込みの各位には、巡拝後「三十六王子社守」を、お世話人を通じて、あるいは各位に送付申し上げます。

※お問い合わせ本三十六王子社担当山崎までお願い致します。

TEL 〇八九七(五五)四〇四四(代)

(納め札)

霊峰石鎚山 三十六王子社巡拝	祈願記入日	年	月	日
第三十六番 天狗嶽王子社大前祈願	願主	才		
願意				

(三十六王子社 御守り)

(裏 表)



(縦 7cm × 横 3cm)



※三十六王子社巡拝の様子
(平成二十八年撮影)

日本画家・浜田泰介氏

「秋の石鎚」百号 奉納



宇和島市出身の日本画家・浜田泰介氏が今般、石鎚神社に「秋の石鎚」の絵画をご奉納頂きました。

浜田先生は富士山や石鎚山・木々花々など日本の風景を中心に、各地の神社仏閣の襖絵や障

壁画を手がけ、日本でも有数の画家として活躍されています。また、平成二十七年三月に行われました「第二回石鎚山トークフォーラム」にはパネリストとしてご参加頂き、画家としての目線から見た石鎚山を熱く語って頂きました。

今般、ご縁を頂き、浜田先生の名代として住井啓子・副大会長が参列。前日に成就社にてお礼参りをし、奉納式へと臨まれました。神前に絵画を奉納し、祝詞奏上・玉串奉奠にて、大神様へのご報告を致しました。

当社には浜田先生の絵画として、「春宵石鎚」(奉納・浜田泰介氏)・「霊峰石鎚山(冬)」(奉納・住井啓子氏)、そして今般の「秋の石鎚」(奉納・浜田泰介氏)と揃いました。

神縁人縁。当時の成就社・古門孝義主任と住井氏により結ばれた浜田先生とのご縁が今に引き継がれ、今般の奉納となりました。このご縁に心から感謝申し上げます。

記・権宮司 十亀

音霊の祈り

(令和四年) 第四十四回
石鎚流 太鼓打ち方講習会

〔太鼓は音霊〕

各祭典で石鎚流会式太鼓、御神像拝戴太鼓、閉式太鼓、石鎚流太鼓をやってみませんか？これまで受講経験のない方でも大丈夫です。志ある方のお申し込みをお待ちしております。また、実際に祭典にて太鼓を打たれている方もより一層の技術向上を目指しましょう。

左記日時にて執り行いますので、数多くのご参加をお待ちしております。

記

〔日時〕

十一月十九日(土)

午前八時 受付

十一月二十日(日)

正午 解散

〔駐車場〕

社務所直下の第1駐車場右手の坂を登った青色の建物周辺へ駐車下さい。

〔持参品〕

白衣・白袴・足袋・笏・筆記用具

洗面用具・着替え等

〔参加資格〕

先達会符取得者

〔受講料〕 一万円



御開帳太鼓とは：
石鎚神社特殊神事である御神像拝戴時に打つ太鼓

開閉式太鼓とは：
祭典の最初と最後に打つ太鼓

◎二日目には太鼓打ち上げ奉納を神社会館三階にて行います。

◎各教会・遙拝所・崇敬組合を通じてお申し込み下さい。

〔申込締切〕

十一月四日

◎開閉式太鼓・御開帳太鼓

(※御開帳太鼓は開閉式太鼓を三回以上受講した人が対象)

職員表彰

優良従業員表彰

岩本 昌美 職員



今般、西条市雇用対策協議会より岩本昌美職員が優良従業員表彰を受けました。

岩本職員は平成八年三月、石鎚神社へ奉職。

爾来、社務所での先達関係や奉賛会などの事務に精通。また信徒皆様、一人一人のお名前を覚え、その中で出会いに感謝し、日々の社務に精励しています。

ここにご報告申し上げ、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

記・権宮司 十亀

新職員紹介

会計

伊藤 正彦



五月十五日より奉職させていただきましたこととなりました伊藤正彦と申します。

経歴は、郵便局一筋に四十二年間勤めた後、植物工場にてハーブの生産に一年余り勤めました。そしてこの度、縁あって会計長に携わることになりましたこと、大変ありがたく思っております。しかしながら、この大役をお引き受けするにあたり、相応の心の整理が必要でした。その中で思い起こしたことです、明治天皇御製の短歌に「なすことの なくて終わらば 世に長き よはいを

たもつ かひやなからむ」という歌があります。私自身、定年まで働き続けたことに幸せを感じていましたが、人生百年時代とも云われる昨今、まだまだ先があります。この先を平凡に暮らしていくことよりも、これまで見守っていただいた石鎚の大神様に感謝し、御恩返しのためにも、ご奉仕させていただくことで、何かを残せるだろうと思ひ、一意専心で取り組んで参る所存でございます。六十二歳になってもまだまだ不束者ではございますが、どうか関係の皆様、今後のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



今は昔 石鎚山の風習

石鎚山詣でが一般的になったのは江戸時代中期頃からとの説がありますが、おそらくはその頃から昭和50年代までは伝えられてきた登拝の風習のひとつに「草鞋の履き替え」があります。

石鎚山には表参道から登ると、登山道に下から試しの鎖、一の鎖、二の鎖、三の鎖と称する総延長²³⁰メートルにも及ぶ急峻な岩場に掛かる鎖の行場（それぞれに迂回路もあり）があります。

一の鎖から山頂に向けては、御神域の要に差しかかるため、この鎖元で下界を踏んだ草鞋を新しい草鞋に履き替えました。そのため、一の鎖元の登山道周辺には「草鞋塚」と呼ぶ草鞋の小山が散見できました。

文責 瀬宜 曾我部

大阪教会 四月十六日 創立七十周年奉祝大祭 斎行

功労章銀笏 元老大顧問

石鎚本教師 権中教正

湊 喜美子 教会長



令和四年四月十六日午後一時半より大阪府大阪市北区本庄東の里に鎮まります、石鎚本教大阪教会の創立七十周年奉祝大祭が斎行されました。

本社より武智宮司管長、十亀名菅宮司管長夫妻、勝本権禰宜が参向。役員信徒は、中西奉賛会長・名誉顧問、平岡筆頭常務総代を始め、岡村、伊藤、沖野、田窪常務総代、十亀、藤原氏子総代、山中本教理事、三吉、出原崇敬組合長、深川教会聯合会副会長、岡村敬神婦人会長、柳川、初

谷教会長、佐伯副教会長、日高遥拝所長が出席されました。



当日朝、ご手配いただいたバスにて本社より出発しましたが、前日までの天候からは信じられない程の快晴で、日差しを受けた車内は上着を着ていると汗ばんでしまう程の陽気でした。

土曜日の高速道路、道路工事に伴う通行止めの情報等、出発時点では到着に遅れが出ないか心配でしたが、まさにお導きをいただいたかのように事前情報が嘘であつたのか

と疑う程順調に進み、予定していた到着時間よりも早く伺うことができました。



御祭儀は湊喜美子教会長・湊照彦常務総代、教会教師の方々の御奉仕にて進行する中で、重ね重ねて至る七十年の節目、これまでの軌跡への感謝、そして今後の御神威の昂揚と教会、信徒の益々の弥栄を願う祝詞が奏上され、鈴の

音が響く奉納舞踊は初めて拝見する舞で、凛として力強く清々しい舞姿に参列した皆が目を奪われていました。



御祭儀終了の後、四月五日の本社大祭にて授与されました湊喜美子教会長への功労章銀笏、並びに本教教師権中教正を教会の皆様の前で改めて

お披露目し、教会長をはじめ役員の方々への感謝状の贈呈、副教会長の辞令伝達がなされました。



その後、教会長謝辞の中で、参列の来賓への感謝とともに、常日頃より支えてくださる役員信徒への篤い感謝の言葉が述べられました。また大祭への列席が叶わなかった瑞明遥拝所西川薫刀自命、教会へ貢献された信徒の方、御二方の安らかなことを共に祈るひとときがありました。この近くも大切な信徒、関係者への感謝と思いやりの心が七十年の時を重ねてきた根幹であり、現教会長の祖父である矢野重吉大人命、その教えを受け教会を興した初代教会長湊ハルエ刀自命から受け継いできた

心なのだと感じました。



場所を祝賀会場であるヒルトン大阪へ移して記念祝賀会が開催されました。一年以上前から各種手配をされて進められていたとお話を伺い、節目の年を迎えるにあたって十全な準備に感嘆いたしました。

ご挨拶の中で、湊喜美子教会長は実母である前教会長の教えと想いを感じながら過ごされた十五年の中での感謝と、島本貴代副教会長は教会長の歩まれた道に触れ、今後の躍進への決意を述べられました。



祝賀会の中で何度かサプライズ演出があり、教会長、副教会長への花束贈呈が行われていました。共に教会を支える親族一同、信徒一同の仲睦まじい姿は今後益々の教会の繁栄に繋がる姿であるように思います。信徒さんの為に、

来られた方が気持ちよく帰っていただけるようにと日々重ねてきた行いと想いが今そのように仲睦まじい姿として表われていたと思います。

大阪教会の七十周年の御祭儀に御縁をいただきましたことに感謝申し上げます。益々の御繁栄と、教会長を始め役員・信徒の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたします。ご報告とさせていただきます。

【辞令】

副教会長

島本 貴代

【感謝状】

教会長

湊 喜美子

福岡 功

福岡 義登

石原 英俊

石原 委世

阿川 政明

岩元 雅清

澤田 益男

藤原 輝男

吉見 孝子

山口 玉緒

湊 恵子

木元 裕子

(順不同・敬称略)

記 権瀬宜 勝本

神明遥拝所

創立三十周年奉祝大祭 厳肅に斎行

斎行日 五月 八日

遥拝所長 大西サカエ

先達 元老大顧問

功労章銀笏

教師 大教正



当遥拝所は、「愛媛県総合運動公園」や「とべ動物園」の入り口に位置し、平成四年に創立され、石鎚大神を心の柱とし、一心に祈りを捧げられています。遥拝所内は凜とした中にも温かみがあり、穏やかな空気の流れる感じが感じることが出来ます。

《本社出向者》

武智宮司

十亀名譽宮司

十亀権禰宜

十亀敬神婦人会常任顧問

令和四年は創立三十周年記念奉祝の年となり、盛大な祭典を行いたいところではありましたが、コロナ禍の終息が未だ見えず、遥拝所役員関係者のみの参列の中、執り行われました。



当日は、爽やかな春風の吹く中、開式太鼓が響き渡り、斎主大西遥拝所長の真心こもる奉仕の中祭典は進行され、三十周年の神恩感謝の祝詞を奏上し、玉串を奉奠し祈念され厳肅に執り行われました。



武智宮司より三十年を迎えられた祝意と、これまで尽力されたことへの感謝、女性が中心となり集う遥拝所の更なる発展を願う挨拶、遥拝所長からは、三十周年を迎えられたことへの感謝、これまで支え続けていただいた皆様への感謝。感謝。感謝。挨拶の一言一言が心温まるものでした。祭典後は、遥拝所横でご子息(次男夫婦)が経営されている「まるしょう」へ場所を移し、少人数ながら終始賑わい和やかな直会となり、奉祝大祭を納めました。

直会後は「砥部焼伝統産業会館」へ向かいました。陶芸家のご子息(長男夫婦)が作られた砥部焼の作品を見学し、

大西家と地元である砥部の地域との繋がりを感ぜさせていただきました。

後日開催される作法講習会には新補教師の参加を予定され、次に繋げるべく準備も調べておられるとのこと。今後のご活躍を楽しみにしています。

今後も、遥拝所の益々の御発展と、遥拝所長を始め役員・信徒皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ報告いたします。

※感謝状

遥拝所長 大西サカエ
(敬称略)



記 権禰宜 十亀

福岡田川教会

創立六十五周年大祭

斎行日 六月五日

教会長 榎並 好美
先達 元老大顧問
教師 権中教正



《本社出向》

武智宮司管長
十亀権禰宜
植村巫女

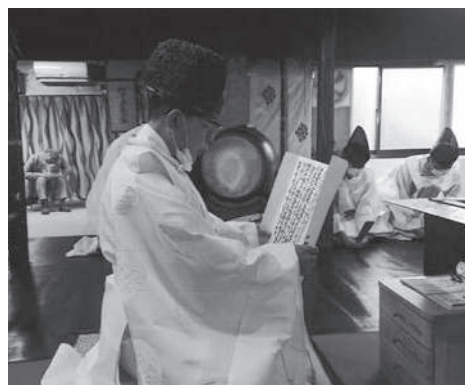
昨年（令和三年）が創立六十五周年の佳節でありましたが、コロナ禍の為延期し、本年（令和四年）周年大祭を行う運びとなりました。

前日、教会に立ち寄り打ち合わせを行いました。その道中、「石鎚神社」の幟旗を必要最小数立てられたそうですが、それでも見事な幟旗、まさに圧巻でした。



十年前の榎並教会長就任当初は、教会長お一人が動き、指示を出し準備を進められていましたが、今回は一人一人がすべきことを理解し、大祭に來られる参拝者の為に心を込めて榊の葉一枚一枚を丁寧に拭いている姿は、教会長の姿や教えがしっかりと受け継がれているのだと感ずることができました。

大祭当日は雨の中での祭典となりましたが、周年大祭前に教会入り口に雨避けの屋根が新設され、土間もコンクリートを敷いていた為、参拝者も雨の心配が無く参列されていきました。



大祭式で執り行われた祭典では、榎並教会長が六十五年続く教会の大神様へ感謝と祈りの祝詞を奏上。祭員一同心一つにご奉仕され、玉串拝礼では参列の皆さんお一人お一人から祈りを捧げられていきました。

閉式太鼓の後は、教会等級辞令、感謝状授与、先達・教師の昇進辞令が伝達され、御神像拝戴、護摩焚き神事を行い祭典を納めました。

今周年大祭はコロナ禍の為、参列者数の制限などを行ったそうではありますが、そのような時だからこそ精一杯の「おもてなし」の心が有り難く感じました。

福岡田川教会京都遙拝所も設立され、今後も教会長を中心に石鎚信仰の祈りの輪を広げていただき、教会の益々の御発展をお祈り申し上げ報告いたします。



記 権禰宜 十亀雅史

※教会等級

三等教会

※感謝状

榎並 好美

榎並 良香

中野 浩一

西野 孝弘

川井美智子

近藤 新一

榎並 好美

※先達昇進

榎並 好美

佐藤 智紀

坂本 紘子

新山 修司

竹村 義彦

※教師昇進

榎並 好美

田守 健司

飯田 新二

榎並 宗近

榎並 良香

(順不同・敬称略)

福岡田川教会 京都遥拝所 開所大祭 齋行 六月十九日

元老大顧問

権中教正

榎並 好美 教会長



名誉大監長

中講義

三宅 秀樹 遥拝所長



此の度、京都府京都市中京区毘沙門町の里に新しい信仰の灯たる遥拝所が設立され、令和四年六月十九日午前十一時より開所大祭が斎行されました。

本社より武智宮司管長、勝本権禰宜が参向し、中西名誉顧問、湊常務総代、田窪常務総代が参列されました。

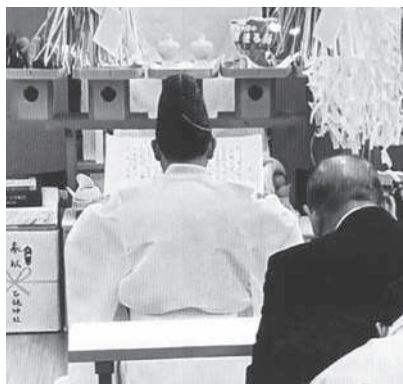


今回初めて京都の地に石鎚の信仰の場である遥拝所が設立しましたが、三宅秀樹遥拝所長は、福岡県田川郡に構える福岡田川教会の榎並好美教会長の元で石鎚の信仰に触れ、そのお人柄に惹かれ、長年修行の日々を過ごされる中に、神縁人縁を戴かれ此の度、福岡田川教会を親とし、子たる京都遥拝所の開所の運びとなりました。



開所大祭に先立って、令和四年五月二十九日午後六時より石鎚神社本社御本殿にて、新しい遥拝所の御神像へ石鎚大神の神霊を分け移す入魂の御祭が斎行されました。京都を始め、各地より遥拝所の役員、信徒が集い心静か

に新しい御神像の入魂の御祭儀を共にし、その日のうちに京都遥拝所の御神殿へと三柱の御神像を遷御し、開所大祭へ向けて各所準備に邁進されておられました。



当日は晴天に恵まれ、遥拝所が入るビルへと役員来賓を始め遥拝所の関係者が多数参加されました。

遥拝所はビルの中の一部屋に事務所と併合して構えられ、限られたスペースの中、随所に麗しく、無駄なく用いる工夫がなされていました。

祭儀の中で、遥拝所の発展繁栄の祈りが捧げられ、遥拝所長、本社、来賓、参列者が心一つに玉串奉奠と大祝詞斉唱いたしました。祭儀終了の後には遥拝所開所して初めての御神像拝戴神事が斎行され、参列された関係者、信者の皆様は鎮まる三体の御神像の神徳を戴き、新たな遥拝所の門出を祝いつつ各々の神恩感謝と心願成就を捧げられました。



御祭儀終了後、祝賀会場へ移し、開所記念の祝賀会が執

り行われ、遥拝所長の謝辞のなかで開所に至るまでの日々の軌跡、そして関係の皆様への感謝を伝えられ、終始和やかな時間をすごさせていただきました。



榎並教会長との御縁、またその人柄に惹かれて石鎚の信仰を深めて来られた三宅遥拝所長ですが、ご自身も信仰・修行の中で御縁、御山登拝を通しての御縁、普段の仕事の中で御縁、地域での繋が

り等、多彩な交友関係や様々な人との御縁があり、またそれらの方々和やかな雰囲気、接する人柄によつて今回の門出を迎えられたのだなど、大祭前の準備や習礼の時、祝賀会の時など、常に和やかに暮れながら時間を過ごす様子から拝察致しました。

福岡田川教会京都遥拝所の開所大祭の御祭儀に御縁をいただきましたことに感謝申し



上げ、新たに歩み始めた遥拝所の弥益々の御繁栄と、遥拝所長を始め役員・信徒の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしつつ、ご報告とさせていただきます。

【神社先達昇進】

名誉大監長	三宅 秀樹
副監長	嶋崎 健之
監長	徳本 幸子
大監長	千原 新一
取締役	栗木 貴史
副大会長	村山 努
大会長	国府 将人

【本教教師昇進】

中講義	三宅 秀樹
権大訓導	嶋崎 健之
権大訓導	徳本 幸子

【感謝状】

教会長	榎並 好美
遥拝所長	三宅 秀樹
	三宅美智加
	国府 将人

(順不同・敬称略)

記 権瀬宜 勝本

大麻頒布式

令和四年十一月一日

午前十時より

来る令和五年に奉斎する大麻(たいま・おはらいさん)の頒布式を月次祭にあわせて行います。

令和四年の新しい年を迎えるにあたり神棚を清め、神宮大麻・氏神社及び崇敬する神社の大麻・お神札を大神様の大御璽として拝受・奉斎し、一年間各家庭の守護神として諸々の罪穢を祓い清めていただきます。大神様の広大な御加護をいただき、家族の一年間の無事と幸せをお祈りいたしますよう。どうぞ皆さまお誘い合わせてご参列ください。

神札と神棚

《神棚のまつり方》

神棚は家庭の中心ですから、いつもきれいにしておき、南か東に向くようにおまつりします。

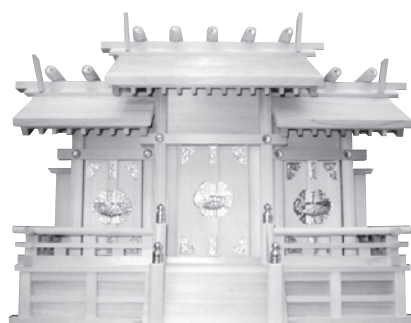
神棚の無いご家庭でも大麻を受けていただき、目の高さくらいのタンスや本棚の上を綺麗にして、簡易神棚・御札立を置き、神棚としておまつりください。

御神前には、毎日のお米やお塩・お水等の他に季節の初物、お土産等も感謝の気持ちを含めてお供えし、お参りしましょう。

◎一年間お守りいただいた古いお札は感謝を込めて、石鎚神社、またはお近くの氏神様に納めましょう。

・神棚(三社造り)(二社造り)は、本社社務所へお声掛け下さい。

神棚(三社造) 神棚(一社造)



初穂料 二七、〇〇〇円



初穂料 一二、〇〇〇円

サイズ：高さ44cm×横巾46cm×奥行22cm

簡易神棚

・簡易神棚と御札たては、本社、成就社へお声掛け下さい。

御札たて



初穂料 一、〇〇〇円



初穂料 一、〇〇〇円

神宮大麻

石鎚神社大麻

をお祀りしましょう

神宮大麻、石鎚神社大麻を始め、神札は、新しい年を迎えるとき、また新居などへ引っ越しの際に、ご自宅や会社を御守護（おはらい）して頂く御札です。

神宮大麻

初穂料一、〇〇〇円

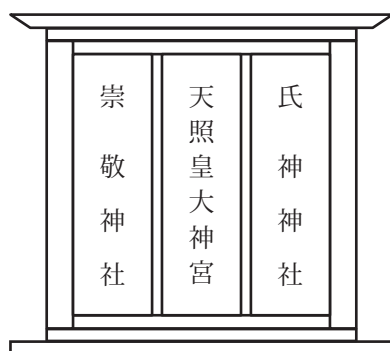


石鎚神社大麻

初穂料一、〇〇〇円

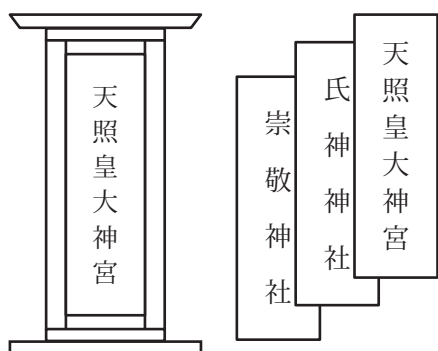


《大麻のまつり方》

横に並べてまつる場合
三社造

重ねてまつる場合

一社造・簡易神棚・御札立



《大麻頒布

御世話人の皆様へ》

例年、お世話人の皆さまによりまして各地の信者・崇敬者の方々に大麻のお世話をしていたきますこと厚く御礼申し上げます。

本年の石鎚神社大麻数の変更、また御世話人の変更等がございましたら、

九月中に本社までご連絡していただきますよう、お願い致します。

尚、ご連絡のない場合には昨年と同数の大麻を送付させていただきます。

また、新しく大麻頒布の御世話人をしていただける方を募集しています。大麻十体以上お世話していただける方は本社までご連絡ください。

【連絡先】

石鎚神社 担当 祭儀課
電話 089715514044

NPO
法人

石鎚森の学校活動報告

※通常総会

書面決議にて開催

【日時】

令和3年5月20日(金)

1、通常総会の決議があつたものとみなされた事項の内容

承認事項 令和3年度事業報告の承認について

承認事項 令和3年度決算の承認について

承認事項 令和4年度事業計画(案)の承認について

決議事項 理事12名の選任について(5月31日任期満了により)

2、決議事項を提案した理事の氏名

理事長 武智正人

3、議決権を行使することができ
る正会員の総数65名

各提案に書面を以て賛意を表した正会員の総数51名

4、選任された理事、監事の氏名

理事／武智正人(理事長)、西海賢二(副理事長)、伊藤和豊、加藤法泰、黒田仁朗、曾我部英司、鶴見武道、松井宏光、藤田晴彦、山田麻以、智内威雄

監事／小林亜紀代

辞任理事／河野強(定款上問題がないので、後任理事の選定は当面の間行わないことを可決)以上、理事1名体調不良により辞任、他、理事、監事ともに全員重任を可決。任期は、来る6月1日より2年間、全員の就任受諾書を受理。

※令和4年度愛媛県石鎚山系
生物多様性保全推進協議会
第1回総会

【日時】 5月18日(水)

13時30分～14時45分

【場所】 愛媛県農林水産研究

所花き研究指導室 大研修室／
東温市下林

【会員出席者】 愛媛県自然保護

課／秋川裕一郎課長始め担当氏計4名、愛媛県生物多様性センター／畑中満政次長、西条市環境部／近藤孝弘環境政策課長始め計2名、久万高原町／岡誠也ふるさと創生課班長始め計2名、面河山岳博物館／矢野真志係長、愛媛大学社会共創学部／渡邊敬逸准教授、愛媛植物研究会／松井宏光会長、NPO法人西条自然学校／山本貴仁理事長、NPO法人石鎚森の学校／曾我部英司理事・事務局長始め計3名、愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟／峯本典寛会長、面河溪を愛する会／白石崇会長、えひめ森の案内人会／藤原邦彦会長、いしづち森林組合／伊藤康雄代表理事組合長、愛媛県勤労者山岳連盟／太田正博代表

【オブザーバー】 環境省中四国

地方環境事務所四国事務所野生

生物課／大磯寿雄課長補佐、福

田学生態系保全等専門員、四国

森林管理局愛媛森林管理署／中

居和彦地域林政調整官

【事務局】 愛媛県自然保護課、
西条市環境政策課、久万高原
町ふるさと創生課【事務局出席者】 曾我部英司
事務局長、岩本昌美、黒河由
佳両事務局スタッフ標記会合が、書面決議でも
リモートでもなく久し振りに
対面で開催されました。やは
り対面の方がちよつとした意
見なども出やすい気がするの
は私だけでしょか。さて、当日の議題は役員改
選、令和3年度事業報告、同
決算、監査報告、また令和4
年度事業計画、同事業予算の
変更の承認、協議、そしてそ
の他の報告、確認等がなされ
無事閉会となりました。※「研修・視察」
四国西予ジオパークへ

【日時】 6月5日(日)

【場所】 愛媛県南予方面へ

【参加者】 黒河由佳・岩本昌
美事務局スタッフ・藤原隆子
各サポートスタッフ

本来であれば今日は「令和4年度春季 環境啓発登山(グラウンドワーク石鎚)」の実施予定でありましたが、雨天の予報がほぼ100%であった為中止となりました。という事で、参加予定の3名にて、南予方面の四国ジオパークへ行ってきました。

途中、宇和島市南楽園により、花菖蒲を鑑賞しました。四国最大規模の日本庭園には、色とりどりの花菖蒲が咲き、小雨模様とあいまって風情が感じられました。園内には梅の木も数多く植栽されており、梅の時期には香りが漂うのであろうと思われます。元愛媛県自然保護課の課長で、現在南楽園の社長の片岡様をお訪ねいたしました。残念ながらご不在でお会いする事はできませんでした。

さて午後はいよいよ『四国西予ジオミュージアム』へ。西予市は、大地が育んだ多彩な自然や生態系、そこで暮らす人々の営みをまるごと感じられる「ジオパーク(大地の公園)」を推進しており、2013年9月にジオパーク認定を受けています。その



ジオパーク活動の一環として、今年4月に「四国西予ジオミュージアム」が開館しました。こは、自然科学や地域に係わる文化などについて、資料の収集と保管、調査研究を行うとともに、常設及び企画展示、体験学習を通して、西予市全域に広がるジオパークの魅力を広く発信し、地域振興・教育文化や観光振興を図ることを目的とした施設です。

音声ガイドを聞きながらまわる事もでき、楽しく学べます。同じ県内でありながら、知らなかった事が数多くあり、とても興味深く拝見いたしました。館長の高橋さんは、黒河スタッフの知人であり、お忙しい中お勧めの見所を紹介してくだ

さいました。西予市役所にお勤めの頃からずっと熱心に研究調査されており、館長に就任されたのはまさに天職。マスク越しの表情はとても輝いておいでした。ありがとうございます。

四国ジオパークには、北部宇和海エリア、肱川上流エリア、黒瀬川エリア、四国カルストエリアと4つのエリアがあり、今度は現地を訪れたいと思いました。

※石鎚山お山開き案内人活動

3年ぶりに再開した本活動。今回はお許しを頂き、福岡神和教会成就組ご一同様から頂戴しました活動参加のご感想を紹介させていただきます。

【日時】7月2日(土)

「コロナ禍の為、久し振りの森の学校に参加させていただきました。とても楽しい時間でした。神社のこと、鳥居のお話、木々の違いやetc。とても1時間では足りない盛沢山なお話を伺うことができ、頂上社まで登れない

熟年組の私たちにとって学ぶことの多いひとときでした。ユーモアを交え、沢山の知識を惜しみなくお伝えくださいましたミスター・リチャードに感謝。小学校などこれから伸び盛りの子どもたちにも聴かせたい。そういう機会があれば良いなと思います。お世話になった石鎚神社の皆様に心より御礼申し上げます。」



ご参加いただき有り難うございました。温かいお言葉を胸にこれからも精進して参ります。

(文責) 事務局長・曾我部英司



頂上社 護持奉賛会のお願い

皆様のご奉賛を戴き、頂上社のご復興より、十八年が経過しました。

皆さま、誠に有難うございます。厳しい自然環境の中に、頂上社を始め、迂回路等に、維持管理工事の必要性が現れて参りました。

今後もどうかお見守りくださいます様、ご理解ご協力を、お願い申し上げます。

・頂上社ご復興奉賛会は名称を「頂上社護持奉賛会」と改め、維持管理を目的とし奉賛活動を継承して参ります。

・金十万元以上のご奉賛の方のご芳名は、年毎に本社境内の芳名石に刻名させて頂戴きます。

宮司管長、拝。

お問い合わせ・郵便受付

〒七九三三八五五五

愛媛県西条市西田甲七九七

石鎚神社 担当、岩本

TEL 〇八九七―五五―四〇四四

口座 伊予銀行 小松支店

普通預金 一三九九三九三

宗教法人石鎚神社

宮司 武智正人

石 鎚 社 報

〒七九三三八五五五

(発行所) 西条市西田甲七九七

石鎚神社・石鎚本教

【連絡先】電話(〇八九七)

五五―四〇四四 本社

五五―七二四二 FAX

五五―四一六八 会館

五五―七二八一 FAX

五九―〇一〇六 成就

五九―〇四〇八 FAX

五三―〇〇〇八 土小屋

【振替】〇二六八〇―一八三六〇

【発行代表者】武智正人

【編集】曾我部英司

【印刷所】プリ・キュウ・プレス

【購読料】送料共 年五〇〇円

石鎚神社 で 検索